



Hokusei Gakuen University

北星学園大学

2022年7月26日(月)

農林水産政策研究所 研究成果報告会

コロナ禍における農泊とアフターコロナに向けた課題

(2) 古民家農泊

北海道八雲町の農泊と地域運営

北星学園大学 寺林 暁良

目次

1. 本発表の目的
2. 八雲町の農泊推進体制
3. 八雲町における農泊実施の経緯
4. やくも元気村の農泊事業の内容
5. コロナ禍の影響と対応
6. 古民家活用型農泊事業の効果

1. 本発表の目的

グリーンツーリズムから農泊へ

■ 本業的なビジネスへの転換を目指した政策展開

□ しかし…ビジネス転換という理想とのギャップ(大學・納口, 2019)、多様な地域課題の解決が結びついた現実(福田ほか, 2020)



「生きがい／ビジネス」という二項対立図式から
コミュニティ・ビジネス(コミュニティの再生, まちづくり)という視点
の重視へ

1. 本発表の目的

地域運営という視点の必要性

- 地域課題の解決、地域社会の再生を目指すための持続的な体制づくりが求められている。 Cf) 地域運営組織(RMO)、農村RMO
- 「新しい農村政策のあり方に関する検討会」でも経営の持続的発展のみならず、資源の持続的利用や社会サービスの保管などを一体的に運営する「地域運営」の視点が不可欠だとされる



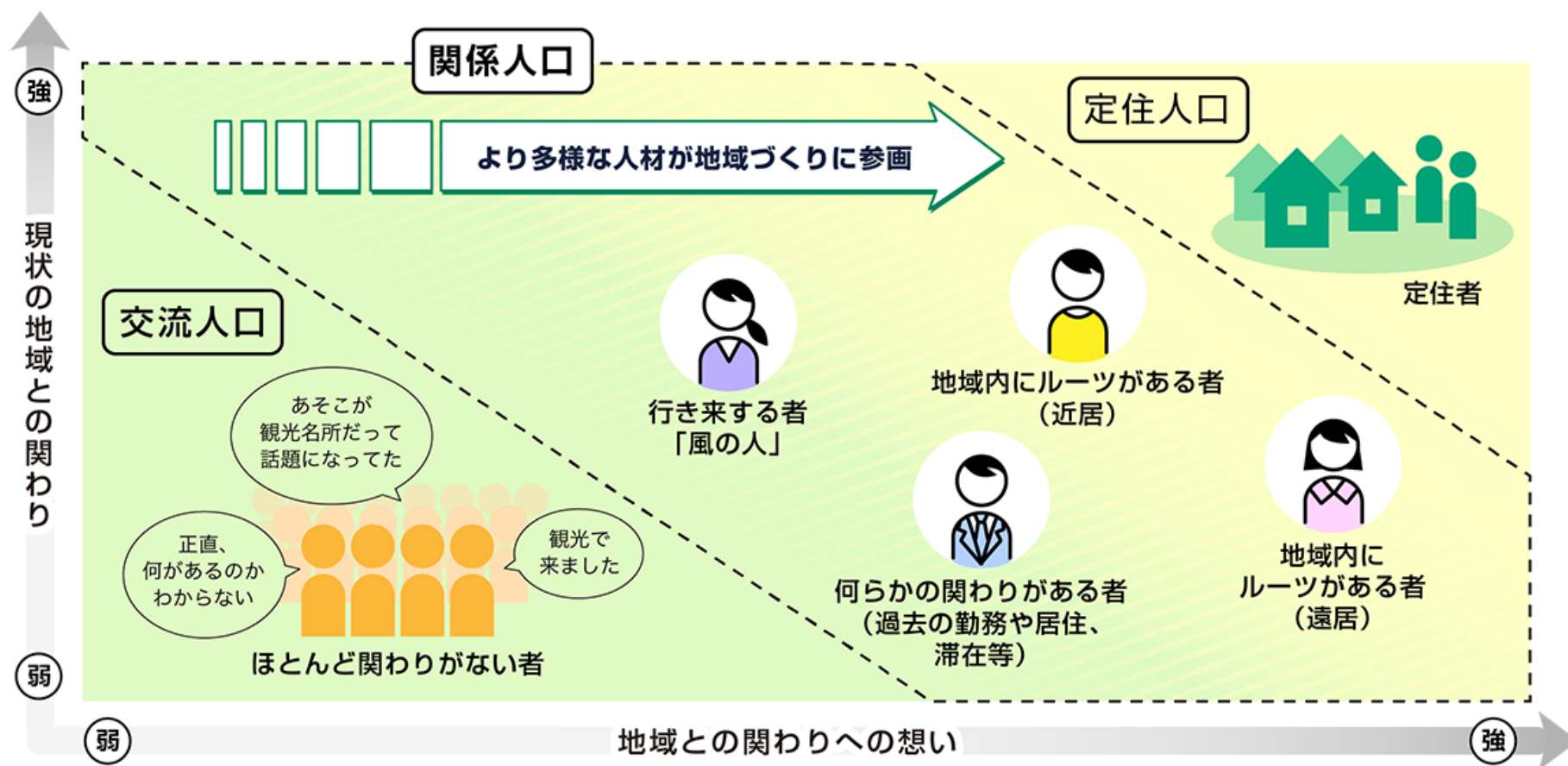
農泊を地域運営の観点で捉え直す

新しい農村政策の在り方に関する検討会・長期的な土地利用の在り方に関する検討会(2021)「地方への人の流れを加速化させ持続的低密度社会を実現するための新しい農村政策の構築——令和2年食料・農業・農村基本計画の具体化に向けて」(<https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/noukei/attach/pdf/210604-1.pdf>, 2021年10月27日閲覧)。



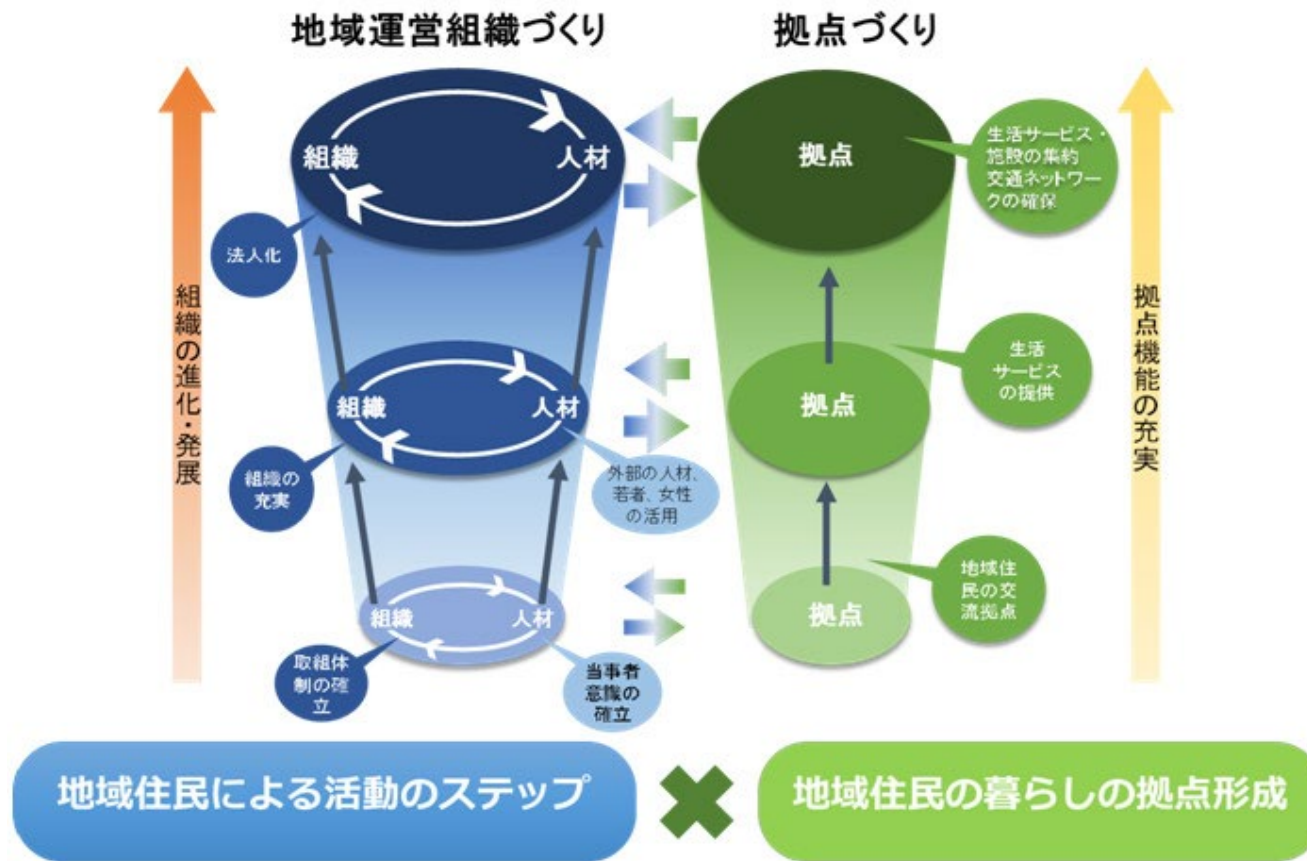
1. 本発表の目的

農泊と地域運営：関係人口を増やす



1. 本発表の目的

農泊と地域運営：拠点を作る



1. 本発表の目的

古民家活用型農泊の特徴と課題

- **古民家**: 昭和25年の建築基準法制定時に既に建てられていた「伝統的建造物の住宅」すなわち伝統構法(全国古民家再生協会)
- 地域文化の象徴として価値の見直し、空き家活用の機運
- 宿泊だけではなく、レストランや交流施設など、多様な活用の方向
- 活用の課題: 購入と改修の費用が必要(交付金も基本は半額補助まで)



いかに持続可能に運営できるかが課題

1. 本発表の目的

北海道における古民家活用農泊

■ 1950年以前に建てられた住宅:2万2,600棟

- 農村部:サイロ、木造バルーン工法の畜舎、軟石造りの石蔵など

■ 農泊推進対策での古民家活用型農泊(道内)

- 鹿追町(2017年度)
- 石狩市(2018年度)
- 八雲町(2018年度)
- 函館市(2019年度)



古民家活用型農泊を地域運営で結び
つけながら持続可能に展開する事例

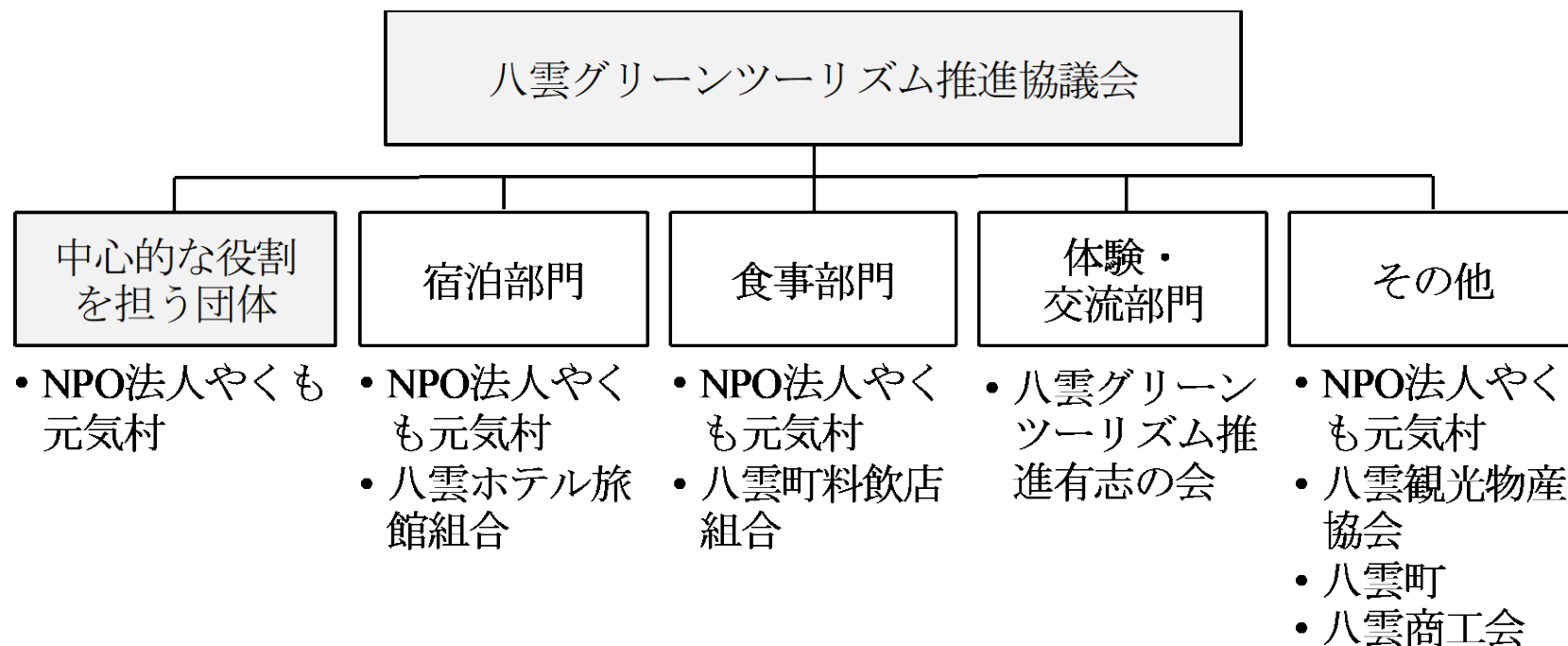
2. 八雲町の農泊推進体制

北海道二海郡八雲町の概要

- 人口 1万5,468人、世帯数 8,105世帯(2021年7月時点)
- 農業粗生産額: 97.4億円(2020年)
 - 酪農(北海道での発祥地)、畑作
- 主要魚種水揚げ: 35.4億円(2020年)
 - ホタテの耳つり養殖



2. 八雲町の農泊推進体制



NPO法人やくも元気村が中心



2. 八雲町の農泊推進体制



地場産レストラン＆古民家ゲストハウスSENTŌ

2. 八雲町の農泊推進体制

農村漁村振興交付金(農泊推進対策)

■ 2018年度:24,540,205円

- 1907年頃に銭湯として開業した古民家の購入と改修
- モニターツアー、ホームページ作成など農泊受け入れ体制づくり

■ 2019年度:6,500,000円

- 外国人向けホームページの構築や情報発信の強化などの体制強化



日本海と太平洋を望む八雲。

農業や酪農、そして漁業も盛んな八雲。

そんな八雲を、通り過ぎるだけではなく、

泊まって、食べて、体験できるのが

YAKUMO VILLAGEです。

八雲で休んで、リフレッシュ。

八雲はいつでもあなたを待っています。



3. 八雲町における農泊実施の経緯

やくも元気村の設立

- 1965年 八雲町公民館 完成

活発な住民活動の拠点に

- 1979年 「若人の集い」設立

八雲山車行列実行委員会をはじめとする各種まちづくり団体が派生

地域内外の交流事業

- 2011年 NPO法人やくも元気村 設立



3. 八雲町における農泊実施の経緯

やくも元気村の概要

- 「結の精神」を生かし、社会全体でお互いを思いやり、支えあい、成長しあえる環境づくりをめざして、障がい者など社会的弱者の人権尊重と社会参加の促進を図ることにより、地域福祉に寄与すると共に、すみよいまちづくりに向けての環境づくりや社会教育活動の推進を図ることを目的とする

＊「福祉」というより仲間が地域で生きられることを重視

- 就労継続支援B型事務所「共生サロン八雲シンフォニー」、共同生活援助事務所「ぐるーぷほーむ“ホッと”」、特定相談支援事務所・障がい児生活援助事務所「えがお」の運営

3. 八雲町における農泊実施の経緯

共生サロン八雲シンフォニー

■ B型作業所(2021年度の利用者38人)

- 軽食・喫茶
- 手芸品・革製品の製作
- 農福連携、漁福連携 など

● パン工房げんき



作業の場を確保する必要性



3. 八雲町における農泊実施の経緯

農泊事業の直接の契機:NPO理事の息子(A氏)のUターン

- 海外の大学卒業後、東京で就職していたが、八雲町の第一次産業の人材不足などに問題意識
- 八雲町に外から人を呼び込むための2つの課題:
 - ①八雲の魅力を知ってもらうこと
 - ②宿泊・滞在施設を設けること

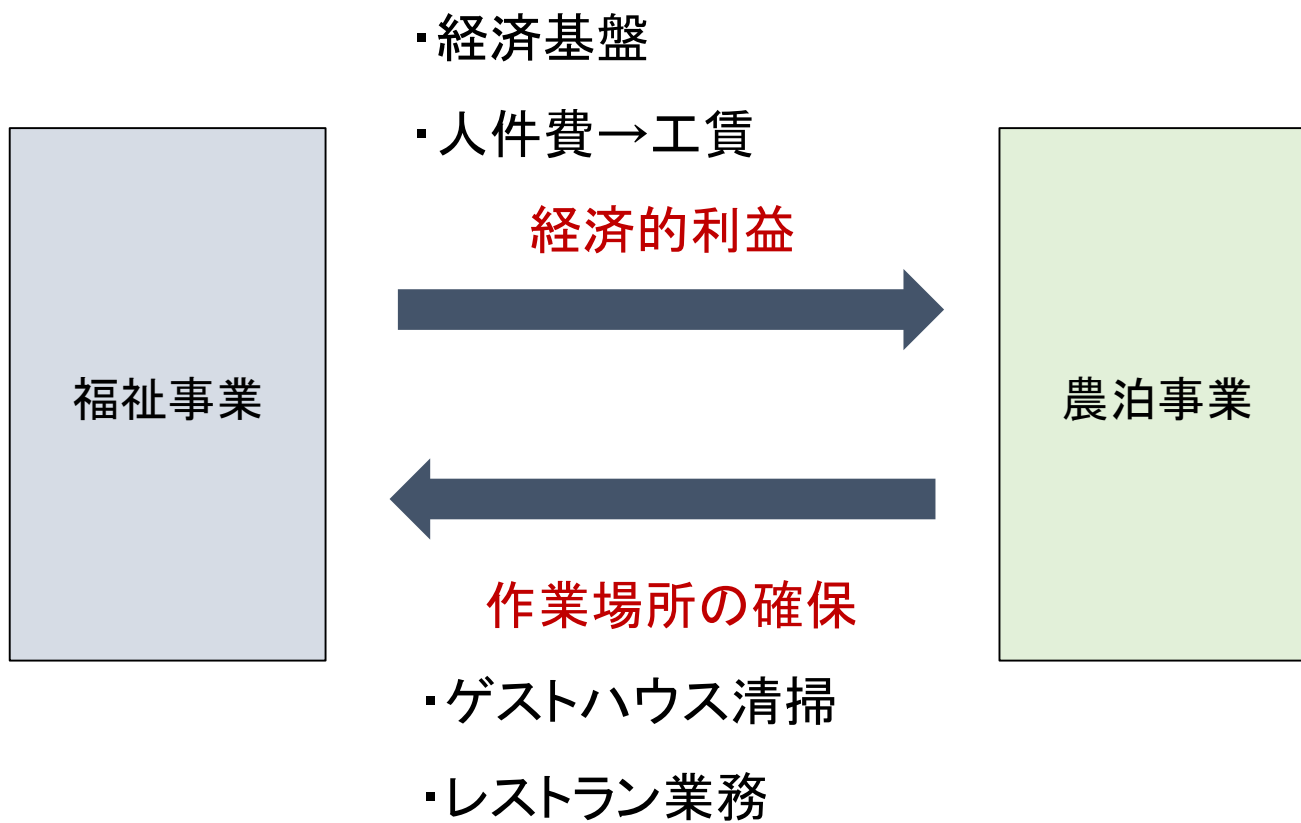


農村漁村振興交付金を活用した農泊事業を開始し、
NPOの「グリーンツーリズム事業」と位置付ける



3. 八雲町における農泊実施の経緯

福祉事業と農泊事業の相互メリットに対する期待



4. やくも元気村の農泊事業の内容

ゲストハウスSENTŌ

■ 設備

- ドミトリー2部屋 × 4ベッド、個室
- キッチンを備えた共用ラウンジ
- トイレとシャワーは共用で2ヶ所ずつ

■ 料金(2022年7月現在)

- ドミトリー 3,000円
- 個室 4,000円



* HPのほか、宿泊予約サイトで予約可

4. やくも元気村の農泊事業の内容

レストラン(カフェ&ラウンジ) SENTO

■ 地産地消にこだわったメニュー

- 米、牛肉、豚肉、卵、牛乳、軟白ネギ、ホタテなどは八雲町の地場産
- 地酒、地ビール

■ 地域内外を結びつける拠点

- 100歳体操
- その他各種イベント
などなど



4. やくも元気村の農泊事業の内容

体験プログラム(主に外国人を想定)

体験名	時期	料金 (大人ひとり)
和牛のお世話体験	通年	2,000円
軟白ネギの収穫体験	9～4月	3,500円
オリジナルねぶた作り体験	通年	2,000円
熊彫り体験	通年	3,000円
もち米農家で本格餅つき体験	通年	4,500円
ホタテの養殖体験(耳吊り作業)	3～5月	3,000円
スノーシュー体験	1～3月	2,000円
スノーモービル体験	1～3月	4,500円
八雲名所巡りツアー	通年	3,000円
星空観察体験	通年	1,500円
オオワシ・オジロワシウォッチング	10～3月	3,000円

4. やくも元気村の農泊事業の内容

教育旅行の受け入れ

■ 八雲グリーンツーリズム有志の会

- 八雲町内21軒、近隣の町も含め30軒
- 農家の他、漁家も含まれる

■ 実績

- 2018・2019年度：4都道府県の中高から340人程度が参加
- 2020年度：10校程度の予約が全てキャンセル
- 2022年度：受け入れ再開



コツを掴むと皆さん進んで体験してくれました

他の体験は少ししか見ることはできませんでしたが、成牛ということで体も大きく、力も強いので、注意を払いながらも触れ合いを楽しんでいるように見えました。

出典：Yakumo Villageホームページ



4. やくも元気村の農泊事業の内容

情報発信

- ホームページ
- SNS
 - インスタグラム
 - フェイスブック
 - ツイッター

他の組織・地域との連携

- 八雲町、渡島総合振興局
- 落部ブルーツーリズム推進協議会
- Discover Southern Hokkaido

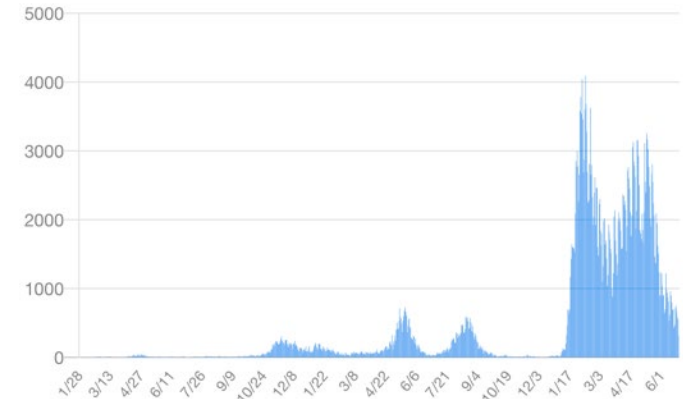


5. コロナ禍の影響と対応

新型コロナウイルス感染症の流行

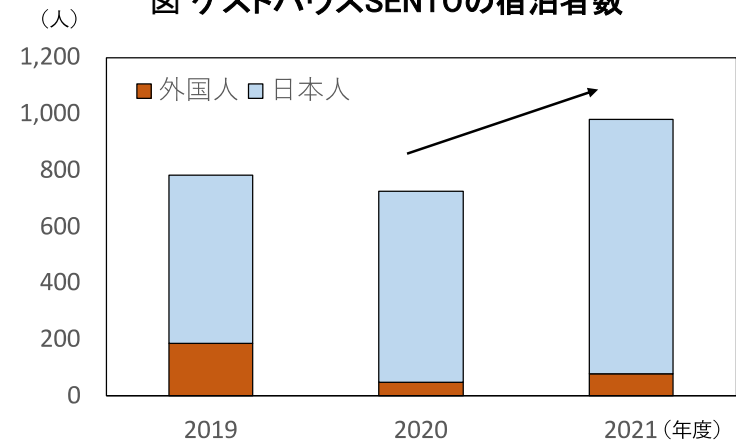
- 2020年2月28日に北海道「新型コロナウイルス緊急事態宣言」、その後、国の緊急事態宣言、まん延防止等重点措置
- 外国人観光客が皆無になるなど影響は大きかったが、福祉事業の基盤があったほか、2021年には宿泊客数も上向くなど、**影響は限定的**だった

図 北海道の1日の
新型コロナウイルス感染者数



出典: 北海道新型コロナウイルスまとめサイト

図 ゲストハウスSENTŌの宿泊者数



出典: やくも元気村「事業報告書」

5. コロナ禍の影響と対応

滞在者を増やす取り組み

- ノマドワーカー、フリーランス、オンライン授業大学生などの滞在
 - SNSでのつながりが次の滞在者を呼ぶ
 - ヘルパー制度
 - 事業への協力者に食事・宿泊場所を提供
 - 帰国できなくなった外国人の受け入れ
 - インターンシップ(農山漁村振興交付金 人材発掘事業)
 - 友達作りインターン、一次産業インターン、酪農研修インターン
 - 北海道移住ドラフト会議 …など
- * 地域おこし協力隊:町から募集業務を受託



5. コロナ禍の影響と対応

リモートワーク体制の整備(2022.2)

- ゲストハウスの2階をコワーキングスペースに改修
- レストランの位置づけをカフェ&ラウンジに。
ゲストハウスの宿泊客はコワーキングスペースとしての利用が可能

wi-fi環境も良好！

- * 長期滞在者向けに、ゲストハウスの隣の中古住宅を購入し、シェアハウス(4人宿泊可能)に



5. コロナ禍の影響と対応

滞在者向けアルバイト紹介

■ 農場(T農園の事例)

- ゲストハウス中長期滞在者などにアルバイトを紹介
- 季節的な労働力需要に対応
- 2021年には20人程度

■ ホタテの耳吊り

- 3～5月に長期アルバイト需要が発生
- A氏が別事業として人材紹介を実施、20人程度をマッチング



5. コロナ禍の影響と対応

リモートワーク体制の整備(2021年)

■ ペコレラ学舎

- 町出資の株式会社木蓮(A氏が役員)が廃校をコワーケーションスペースに
- クラウドファンディングの活用して手作りリノベーション、数十人が参加(ペコラー)
- キャンプ場を併設
- トレーニングジムも完備



4. 八雲滞在者のコミュニティ実践

滞在する若者たちがまちづくり活動に参加！

- 既存の町内イベントなどに参加
- SENTŌを拠点に新しいプロジェクトやイベントを創設
 - やくもの寺子屋、ビアパブイベント

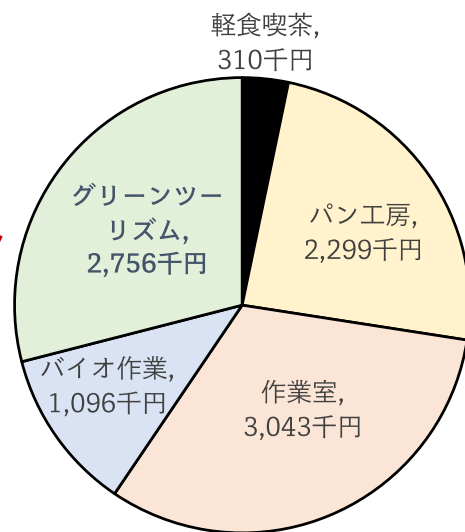


6. 古民家活用型農泊事業の効果

農泊（グリーンツーリズム）事業と町内各事業の関係

	古民家活用型農泊事業が得る効果	古民家活用型農泊事業がもたらす効果
やくも元気村の福祉事業	財政的基盤の確保	- 利用者の作業場所の確保 - 利用者の工賃獲得 - 地域交流拠点の創出
八雲町内の農業・漁業	- 体験プログラム提供 - 長期滞在の宿泊客の獲得・拡大	- 体験事業収入 - 体験による交流 - アルバイト人材紹介 - 地産地消、食材発信

やくも元気村の 工賃造成の内訳



出典：やくも元気村「事業報告書」



6. 古民家活用型農泊事業の効果

なぜ農泊事業を地域運営に結びつけられたか

- まちづくりNPO「**やくも元気村**」という土台
 - 「若人の集い」などを含めると、40年以上のまちづくり活動
 - 地域外・外国人を受け入れる素地、人と人の関わり

- 優れた**コーディネーター**の存在(A氏)
 - 対象者にリーチする多様な手段での情報発信
 - 八雲の魅力を外部の人へ届ける
 - 町内のニーズと外部の人を引き合わせる

6. 古民家活用型農泊事業の効果

なぜコロナ禍でも滞在者を拡大できたか

- 滞在者を獲得するための**多様な入口**を用意した
 - SNS、ヘルパー制度、インターンシップ、クラウドファンディング、地域おこし協力隊…
- 外国人ターゲットから転換し、コロナ禍の**ニーズにうまくリーチ**した
 - ノマドワーカー、フリーランス、リモート授業大学生…
- SENTŌという**滞在場所自体を町の魅力**にした
 - SENTŌでの出会いを求める滞在者、価値観を共有できる場所

6. 古民家活用型農泊事業の効果

まとめ

- 農泊事業を地域運営に関わる多様な事業とリンクさせることで社会的価値が高まり、それによって農泊事業自体の持続可能性が高まることもありえる。このことは初期投資のかかる古民家活用型農泊事業ではことさら重要ではないか。
- 農泊事業と地域運営を結びつけていくためには、地域をよく知っており、時代にあった適切な手段を用いて人・地域資源・地域課題などを結びつけられるコーディネーターが不可欠。